

2016年（平成28年）

12月9日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

11/24～11/30のNYMEX・WTIは、OPEC総会前の神経質な動きの後、30日の総会の8年振りの減産決議で、45.23～49.44ドルの範囲で大きく上昇した。

12月1日は、前日のOPECの減産決議に加え、ロシアも減産方針を示したことから、大幅続伸し、50ドル台の高値をつけた。対ユーロでのドル安による原油の割安感も買いを支えた。1月限の終値は前日比1.62ドル高の51.06ドルだった。

週末2日は、減産決議を好感した買いは一服、利益確定の売りも見られたが、ドル安・ユーロ高の進行による原油の割安感、米国議会によるイラン制裁法の期限10年延長方針の報道が買いを支え、3日続騰した。1月限の終値は前日比0.62ドル高の51.68ドルだった。

週明け5日は、先週の堅調な地合いを背景に、パークインドOPEC事務局長から、12月10日にウイーンのOPEC本部で、ロシアを含む主要産油国による協議を行うとの発表があり、4営業日続伸し、朝方一時52.42ドルまで上伸するなど、2015年7月中旬以来1年5カ月振りの高値を付けた。1月限の終値は前日比0.11ドル高の51.79ドルだった。

6日は、ロイターがOPECの11月産油量を過去最高の日量3419万バレル、ロシアも30年振りの高水準と報道するなど、OPEC減産合意に対する懐疑的な見方が広がり、5営業日振りに反落した。1月限の終値は0.86ドル安の50.93ドルとなった。

7日は、10日の主要産油国会議を前に、非OPEC産油国の協調減産を条件としているOPECの減産への悲観的な見方が広がったこと、EIAによる米国在庫週報で製品在庫増加の報告がされたことなどから続落し、1月限は前日比1.16ドル

安の49.77ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場(1月渡し)は、前週44.30～45.80ドルの範囲で推移した。1日は49.70ドル、2日は50.10ドル、5日は50.80ドル、6日は51.70ドル、7日は51.00ドルで推移した。

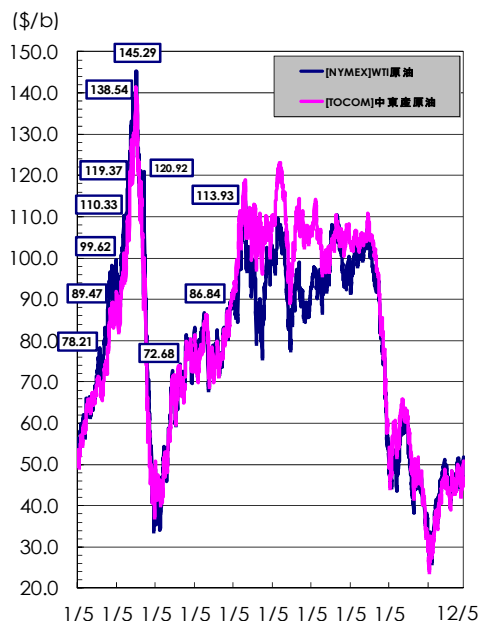
為替は、前週112.24～113.78円の範囲で一段と円安に推移した。1日は114.39円、2日は113.71円、5日は113.81円、6日は113.58円、7日は114.18円で推移した。

財務省が8日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、11月中旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比1,807円上げの32,868円/kl。ドル建てでは50.12ドルで前旬比2.73ドル高。為替レートは1ドル/104.26円。

主要元売会社の12月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、全社2.0～4.0円の値上がりとなった。原油価格は値上がりし、為替レートは円安で、原油調達コストは値上がりだった。

そのような中で、12月5日時点の小売価格は、ガソリンが0.4円値上りの126.0円、軽油が0.4円値上りの105.2円、灯油は1.6円値上りの68.2円だった。ガソリンは4週振りの値上がり、軽油は4週振りの値上がり、灯油は8週連続の値上がりだった。この週(12月第1週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は1.0円の値下げから2.0円の値上げに分かれた。

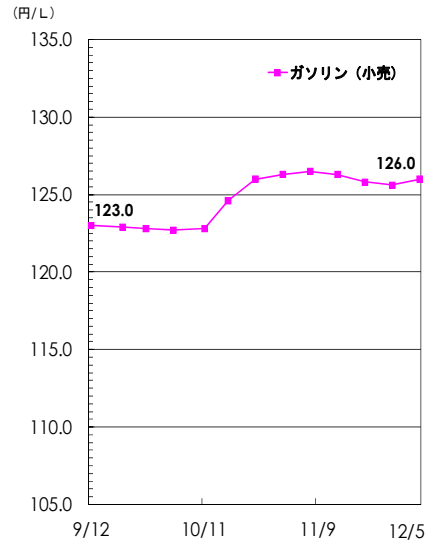
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/27 ~ 12/3	3,778 ▲ 52	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.6 ▲ 1.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	12/3	14,990 ▲ 179	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	12/5	50.79 ▲ 5.61	▲ 11.6
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	12/5	51.79 ▲ 4.71	▲ 14.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月中旬	50.12 ▲ 2.73	▲ 2.62
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	32,868 ▲ 1,807	▼ -3,345
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	104.26 ▼ -0.05	▲ 16.95
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/5	114.81 ▼ -1.57	▲ 9.43



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/27 ~ 12/3	1,062 ▼ -35 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	971 ▼ -59 ▼	▼ -	
	輸出	"	107 ▲ 85 ▲	▲ -	
	在庫	12/3	1,619 ▼ -16 ▼	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/29 ~ 12/5	45.0 ▲ 2.1 ▲	▲ 0.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/29 ~ 12/5	45.9 ▲ 1.7 ▲	▲ 0.4
		(TOCOM/中部)	12/5	47.0 ▲ 3.5 ▲	▲ 2.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/5	126.0 ▲ 0.4 ▼	▼ -1.8	

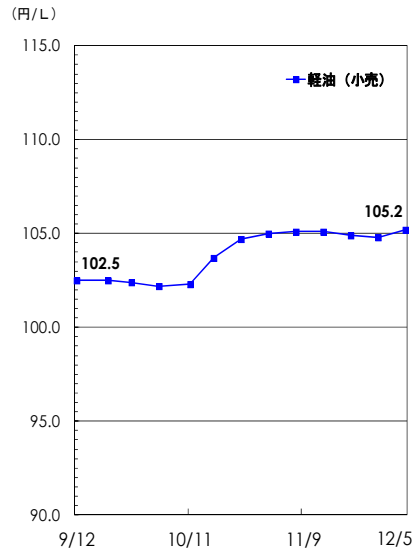
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

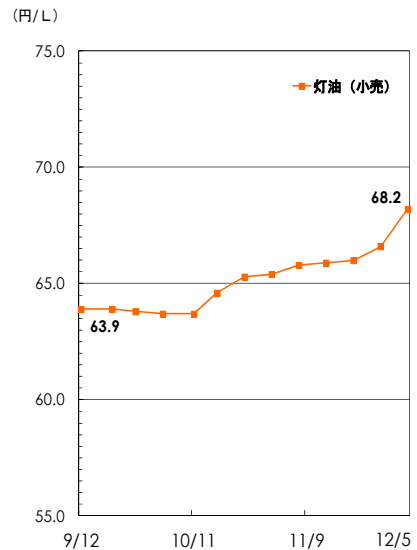
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/27 ~ 12/3	812 ▲ 7 ▼	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	684 ▲ 60 ▼	▼ -	
	輸出	"	193 ▲ 124 ▲	▲ -	
	在庫	12/3	1,481 ▼ -65 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/29 ~ 12/5	45.4 ▲ 1.5 ▼	▼ -3.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/29 ~ 12/5	44.8 ▲ 1.8 ▲	▲ 2.0
		(TOCOM/中部)	12/5	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/5	105.2 ▲ 0.4 ▼	▼ -3.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/27 ~ 12/3	433 ▲ 27 ▼	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	560 ▲ 121 ▼	▼ -	
	輸出	"	0 → 0 →	→ -	
	在庫	12/3	2,232 ▼ -127 ▼	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/29 ~ 12/5	50.4 ▲ 2.0 ▲	▲ 5.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/29 ~ 12/5	50.1 ▲ 2.3 ▲	▲ 6.0
		(TOCOM/中部)	12/5	51.0 ▲ 4.5 ▲	▲ 8.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/5	68.2 ▲ 1.6 ▼	▼ -5.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

7日のNYMEX市場WTI原油は、10日ウイーンのOPEC本部で開催されるロシアを含む非加盟国との協議を前に、11月30日の減産決議が非OPEC産油国の協調減産を実施の条件としていることから、協議への悲観的な見方が広がっており、続落した。また、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫統計で、原油在庫は同240万バレル減と事前の市場予想(同100万バレル減)を上回る減少となったが、ガソリン在庫は前週比340万バレル増加(市場予想180万バレル増)、中間留分は同250万バレル増加(同180万バレル増)と報告があり、米国内の供給過剰懸念も拡大した。1月限の終値

は前日比1.16ドル安の49.77ドルと5営業日振りに50ドルを割り込んだ。2月限の終値は前日比1.03ドル安の50.94ドルだった。

EIAによると12月5日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比5.4セント値上りの1ガロン2.208ドル(66.9円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比6.0セント値上りの2.480ドル(75.1円/ℓ)。ガソリンは4週振りの値上がり、ディーゼルは5週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、11月27日～12月3日に休止したトッパー能力は、11.1万バレル/日と前週に比べて4.1万バレル増加。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は377.8万klと、前週に比べ5.2万kl増加。前年に対しては7.5万klの増加。トッパー稼働率は89.6%と前週に対して1.2ポイントの増加、前年に対しては4.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/3.2%減、ジェット/4.8%増、灯油/6.8%増、軽油/0.9%増、A重油/2.7%減、C重油/11.4%減。今週のC重油の輸入は4.5万kl(前週比4.3万kl増)。軽油の輸出は19.3万kl(前週比12.4万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェットのみが増加し、その他の油種で減少した。原油価格の値上がりが続ぎ、小売価格は4週振りで値上がりとなる中、ガソリンの出荷は97.1万kl(対前週5.7%減)と3週振りに前週比で減少、10週振りに前年比で減少となり、2週振りに100万klを下回った。

ジェット7.8万kl(対前週75.3%増)、灯油56.0万kl(対前週27.4%増)、軽油68.4万kl(対前週9.6%増)、A重油26.5万kl(対前週1.7%増)、C重油28.5万kl(対前週12.2%

減)。

(単位：千KL)

	今週 (11/27 ~ 12/3)	前週 (11/20 ~ 11/26)	前週比
ガソリン	971	1,030	▼ -59 (-6%)
ジェット燃料	78	44	▲ 34 (77%)
灯油	560	439	▲ 121 (28%)
軽油	684	624	▲ 60 (10%)
A重油	265	261	▲ 4 (2%)
C重油	285	325	▼ -40 (-12%)
合計	2,843	2,723	▲ 120 (4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月3日時点の在庫はC重油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは161.9万kl、前週差1.6万kl減。前年に対しては5.8万kl少ない。

灯油は223.2万kl、前週差12.7万kl減。前年に対しては61.4万kl少ない。

軽油は148.1万kl、前週差6.5万kl減。前年に対しては10.6万kl多い。

A重油は71.0万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては5.2万kl少ない。

C重油は187.7万kl、前週差1.5万kl増。前年に対しては28.1万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (12/3)	前週 (11/26)	前週比
ガソリン	1,619	1,635	▼ -16 (-1%)
ジェット燃料	949	962	▼ -13 (-1%)
灯油	2,232	2,359	▼ -127 (-5%)
軽油	1,481	1,546	▼ -65 (-4%)
A重油	710	717	▼ -7 (-1%)
C重油	1,877	1,862	▲ 15 (1%)
合計	8,868	9,081	▼ -213 (-2.3%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月29日から12月5日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円安で、原油コストは値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン97~100円台、軽油44~46円台、灯油48~52円台で原油の値上がりを受け、全般的に堅調が続いた。海上スポット価格は、ガソリン96~100円台、軽油46~47円台、灯油49~52円台、先物価格はガソリン97~101円台、軽油43~46円台、灯油47~51円台で値上がりした。元売の卸価格は2.0~4.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは12月8日、12月10日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、ガソリンを2.0円、その他の油種を3.0円値上げする旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値上がりし、卸価格も引き上げられたことから、製品スポット市況は堅調となった。週間のガソリン販売量は、先週は12週振りに100万klを上回ったが、今週は再び90万kl台だった。

12月第2週(12月8日~12月14日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月29日~12月5日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.1円、灯油は2.0円、軽油は1.5円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.5円、灯油は2.8円、軽油は0.7円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.7円、灯油が2.3円、軽油が1.8円の値上がりだった。原油価格は値上がり、為替は円安で、原油コストは値上がりとなり、製品スポット価格も全般的に堅調となった。

12月第2週の大手元売の卸価格は、2.0~4.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (11/29 ~ 12/5)	前週 (11/22 ~ 11/28)	前週比
	レギュラー	45.0	42.9
灯油	50.4	48.4	▲ 2.0
軽油	45.4	43.9	▲ 1.5

[期近物/終値] [平均]	今週 (11/29 ~ 12/5)	前週 (11/22 ~ 11/28)	前週比
	レギュラー	45.9	44.2
灯油	50.1	47.8	▲ 2.3
軽油	44.8	43.0	▲ 1.8

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.1	▲ 1.7	▲ 1.9
灯油	▲ 2.0	▲ 2.3	▲ 2.2
軽油	▲ 1.5	▲ 1.8	▲ 1.6
A重油	▲ 1.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

12月5日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円値上がりの126.0円、軽油が前週比0.4円値上がりの105.2円、灯油は前週比1.6円値上がりの68.2円だった。ガソリンは4週振りの値上がり、軽油は4週振りの値上がり、灯油は8週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは31都道府県、横ばいは9県、値下がり7県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県120.5円(前週比0.3安)、次が千葉県122.1円(前週比0.3円高)だった。最高値は長崎県の134.3円(同横ばい)だった。都道府県別で最も値上がり

したのは、前週比1.9円高の福井県(127.6円)で、最も値下がりしたのは0.3円安の埼玉県(120.5円)だった。

原油コストは値上がりし、4週振りでガソリン小売価格は値下がりした。今週の元売会社の卸価格は2.0円から4.0円の値上げだった。原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりし、元売会社が卸価格を引き上げたため、次週のガソリン・灯油の小売価格は値上がりが予想される。

	今週 (12/5)	前週 (11/28)	前週比	直近高値	
レギュラー	126.0	125.6	▲ 0.4	08/8/4	185.1
灯油	68.2	66.6	▲ 1.6	08/8/11	132.1
軽油	105.2	104.8	▲ 0.4	08/8/4	167.4

小売価格

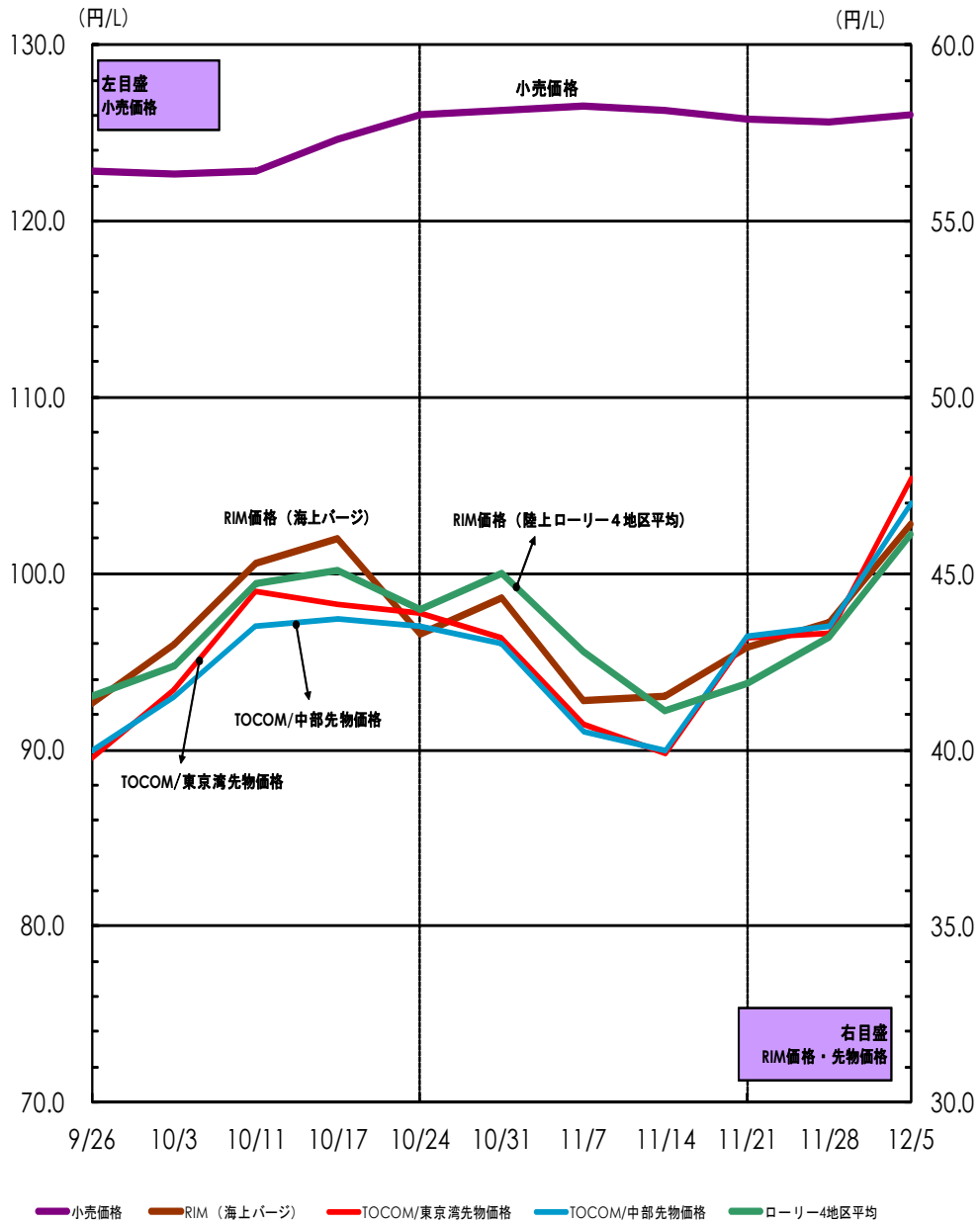
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/9/26 ~ 2016/12/5)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第36号)の公表は、12/16(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。